

平成XX年度 修士論文

修論タイトル

電気通信大学 大学院      研究科

× × 専攻

1234567 名前

指導教官

教授  
教授  
教授

提出日 平成XX年1月30日

# 概要

概要 (アブストラクト) は章とせず、以下の内容を 1 ページに要領良くまとめる。

- 研究の背景 (学術的、社会的)
- 目的
- 方法
- 結論

あいうえお かきくけこ さしすせそ たちつてとあいうえお かきくけこ さしすせそ たち  
つてとあいうえお かきくけこ さしすせそ たちつてとあいうえお かきくけこ さしすせそ  
たちつてとあいうえお かきくけこ さしすせそ たちつてとあいうえお かきくけこ さしす  
せそ たちつてとあいうえお かきくけこ さしすせそ たちつてとあいうえお かきくけこ さ  
しすせそ たちつてと

なにぬねの はひふへほ まみむめも やいゆえよなにぬねの はひふへほ まみむめも や  
いゆえよなにぬねの はひふへほ まみむめも やいゆえよなにぬねの はひふへほ まみむ  
めも やいゆえよなにぬねの はひふへほ まみむめも やいゆえよなにぬねの はひふへほ  
まみむめも やいゆえよなにぬねの はひふへほ まみむめも やいゆえよなにぬねの は  
ひふへほ まみむめも やいゆえよなにぬねの はひふへほ まみむめも やいゆえよなにぬ  
ねの はひふへほ まみむめも やいゆえよ

わをん わをん わをん わをん わをん わをん わをんわをん わをん わをん わをん わを  
ん わをん わをんわをん わをん わをん わをん わをん わをん わをんわをん わをん わを  
ん わをん わをん わをん わをんわをん わをん わをん わをん わをん わをん わをんわを  
ん わをん わをん わをん わをん わをん わをん

な、研究を行った。

## 目次

第 1 章	序論	4
1.1	背景	4
1.2	本研究の目的	4
1.2.1	本研究の真の目的	5
1.3	論文の構成	6
第 2 章	関連研究	7
2.1	A の関連研究	7
第 3 章	システム	8
第 4 章	結果	9
第 5 章	考察	10
5.1	あーだこーだの考察	10
5.1.1	あーだの考察	10
第 6 章	結論	12
謝辞		13
参考文献		14

.....

## 図 目 次

3.1	リサーチ図形 . . . . .	8
4.1	our lab's web page . . . . .	9

.....

## 表 目 次

5.1 なんのかんの表 .....	10
-------------------	----

# 第 1 章

## 序論

### 1.1 背景

インターネットを悪事に利用する輩は減るどころか、ますます増えつつある。彼らは、さまざまな手法で悪事を行いつつあるため、それに対する対策を検討するネットワークセキュリティの重要性が増しつつある [1]。そんな中、

### 1.2 本研究の目的

本研究の目的は、～本研究の目的は、～～～～～本研究の目的は、～～～～～  
～～～～～本研究の目的は、～～～～～本研究の目的は、～～～～～本  
研究の目的は、～～～～～本研究の目的は、～～～～～  
～～～～～本研究の目的は、～～～～～本研究の目的は、～～～～～本  
研究の目的は、～～～～～本研究の目的は、～～～～～  
～～～～～本研究の目的は、～～～～～本研究の目的は、～～～～～本  
研究の目的は、～～～～～本研究の目的は、～～～～～  
～～～～～本研究の目的は、～～～～～本研究の目的は、～～～～～本  
研究の目的は、～～～～～本研究の目的は、～～～～～  
～～～～～

### 1.2.1 本研究の真の目的

本研究の真の目的は，~~~~~本研究の真の目的は，  
本研究の真の目的は，本研究の真の目的は，本研究の真の目的は，本研究の真の目的は，  
本研究の真の目的は，本研究の真の目的は，本研究の真の目的は，本研究の真の目的は，  
真の目的は，

#### 本研究の裏の目的

いいねえ [2] これもいいねえ [3] あーっと，これが一番だな [1]．これはきっちり  
目を通しておくこと．

<http://www.google.com/>

<https://milano.az.inf.uec.ac.jp/~zetaka/labwiki/>

## 1.3 論文の構成

本論文は以下の章により構成される。

第 1 章 序論では、～に関する話をし、第 2 章 関連研究の章では、前章で述べた問題点に対する既存の製品や研究の取り組みを紹介する。またそれにともない、どのような手法が対策として用いられているかを整理する。第 3 章 システムでは、本研究で開発したシステムに関する原理と詳細説明を行う。第 4 章 結果では、なんらかの結果について報告する。第 5 章 考察では、これまでの取り組みと得られた結果から、本研究の成果と各結果に対する考察、ならびに今後の課題について考察する。

第 6 章 結論で本研究について総括する。



## 第 2 章

# 関連研究

こんなんのもありまっせ . 1 章にも書きましたぜ .

### 2.1 A の関連研究

1.2.1 節に、本研究の真の目的を書いたが、その理由はこの関連研究にある .

## 第 3 章

# システム

どうなの、こうなの

図 3.1: リサージュ図形

## 第 4 章

### 結果

こんな結果でしたが、どないでっしゃろ？

図 4.1: our lab's web page

図 4.1 は、国分君作のシンボルマーク

## 第 5 章

### 考察

#### 5.1 あーだこーだの考察

##### 5.1.1 あーだの考察

表 5.1: なんのかんの表

品目	たて	よこ
あれ	1cm	2cm
これ	1.22cm	2.87cm

いろいろ考えた。あーだーこーだー あーだーこーだー あーだーこーだー あーだーこーだーあーだーこーだー あーだーこーだー あーだーこーだー あーだーこーだーあーだーこーだー あーだーこーだー あーだーこーだー あーだーこーだーあーだーこーだー あーだーこーだー あーだーこーだー あーだーこーだーあーだーこーだー あーだーこーだー あーだーこーだー あーだーこーだーあーだーこーだー あーだーこーだー あーだーこーだー あーだーこーだーあーだーこーだー あーだーこーだー あーだーこーだー あーだーこーだーあーだーこーだー あーだーこーだー あーだーこーだーあーだーこーだー あーだーこーだー あーだーこーだーあーだーこーだー あーだーこーだー あーだーこーだーあーだーこーだー あーだーこーだー あーだーこーだーあーだーこーだー

だーこーだーあーだーこーだー あーだーこーだー あーだーこーだー あーだーこー  
 だーあーだーこーだー あーだーこーだー あーだーこーだー あーだーこーだーあー  
 だーこーだー あーだーこーだー あーだーこーだー あーだーこーだーあーだーこー  
 だー あーだーこーだー あーだーこーだー あーだーこーだーあーだーこーだー あー  
 だーこーだー あーだーこーだー あーだーこーだーあーだーこーだー あーだーこー  
 だーあーだーこーだー あーだーこーだー あーだーこーだー あーだーこーだーあー  
 だーこーだー あーだーこーだー あーだーこーだー あーだーこーだーあーだーこー  
 だー あーだーこーだー あーだーこーだー あーだーこーだー

で、これまでの考察をまとめたのが表 5.1 である .

## 第 6 章

## 結論

## 謝辞

感謝します。父上，母上，家族のみんなー先生、研究室の諸先輩方、そして同期のみんなー

## 参考文献

- [1] 情報処理学会の誰か. 情報処理学会論文誌 (ipsj journal) 原稿執筆案内. <http://www.ipsj.or.jp/08edit/journal/shippitsu/ronbunJ-prms.pdf>, 2008-09-01.
- [2] Leah Findlater, Jacob O. Wobbrock, and Daniel Wigdor. Typing on flat glass: examining ten-finger expert typing patterns on touch surfaces. In *Proceedings of the 2011 annual conference on Human factors in computing systems*, CHI '11, pages 2453–2462, New York, NY, USA, 2011. ACM.
- [3] 本村 憲史, 橋本 誠志, 井上 明, and 金田 重郎. ネットワーク上での情報統合に対するプライバシー保護 (< 特集 >: 電子化知的財産・社会基盤). 情報処理学会論文誌, 41(11):2985–3000, 2000-11-15.